

中日友好—若者の視点から—

惠州学院 吳嘉萍



朝、日差しが部屋いっぱいに入りこんでいて、涼しい風が吹いている。いい天気だなと思いがら、公園へ散歩に出かけた。新鮮な空気を吸って、気持ちも清々しくなった。イヤホンから「嵐」の歌が流れてきた。調子に乗ってつい鼻歌を歌ってしまった。「One step 当たり前の One step 毎日だって One step 喜びも哀しみもすべて愛おしい One step あなたにただ One step 届けてたくて One step」何か自分が励まされるようで、メロディーに乗って色々な考えが浮かんできた。

私にとって、日本語を学ぶモチベーションは「日本のアニメが好き」ということだけである。実は、私だけではなく、多くの中国の若者にとっても、日本といえば一番先に思い出したのはやはり「アニメ」である。それは私達が小さい頃から、日本のアニメをたくさん見ていたからである。『ドラゴンボール』とか、『ナルト』とか、『スラムダンク』とか、『ワンピース』とか数え切れないほど挙げられる。特に、ウルトラマンというキャラクターは中国で知らない人はいないといっても過言ではない。日本のアニメは私たちの生活に染み込んでいて、私たちの子供時代、青春時代にも大きな影響を与えている。中学時代、私が好きなアニメは『テニスの王子様』だった。好きなキャラクターの頑張りや、自分の励みとなり、自分の身体に力を注ぐように勉強に力を注いだ。毎朝五時に起きて勉強していた。辛いと思って諦めようとする時、「アニメ」を思い出してまたがんばることができた。他の人はバカバカしいと思うかもしれないが、その時の私は「アニメ」のおかげで我慢強く、粘ることができた。

日本は「アニメ大国」として漫画やアニメやゲームが発達している。日本だけでなく、中国においてもアニメファンもたくさんいる。彼らは日本のアニメを通して日本を知り、だんだん日本に好感を持つようになった。日本の学生と交流して、共に「夏目友人帳」が一番好きだということを知って盛り上がるというサプライズもあった。共通の趣味があれば、心の距離感もすぐ縮まるようになった。この共感こそ中日友好交流の要因だと思う。色眼鏡を取って、相手のことを自分の友達として付き合うなら、きっとうまく付き合うことができるだろう。

若者であれ、年寄りであれ、男性であれ、女性であれ、互いに先入観によって人を見るべきではない。何人であるかよりも大切なことがあるはずだ。「魚心あれば水心」の言うように、自分が善意を表したら、相手も善意を受ける。我々の若者としても、社会や自分の観念に制約されないで、相手のことを理解し合いたい。これはかなり時間がかかるかもしれないが、きっとできると私は信じている。

イヤホンから歌は続いて流れてくる。「幸せって何なの 笑顔あふれること Everybody 手を叩け Clap Oh Yeah! Clap All right My friend 何が起こったの 涙ふきなよ Let me hear you say いっせいのせい Hey! 心配ないや」大きな国同士はなかなか難しいかもしれないが、小さな個人個人の中日友好は簡単にできることだ。笑顔を湛えて、誠を尽くして交流すれば十分だと私は思う。